

よりよく生きる

3年生の道徳授業の紹介 「二通の手紙」

3年生の3学期の道徳授業の内容を紹介させていただきます。

資料のあらすじ



動物園の入園係だった主人公・元さんは、入園時間終了後、ある姉弟が保護者の同伴なしで来園する。元さんは、動物園の規則を破り、姉弟を入園させる。その後、閉門時間を過ぎても姉弟は戻ってこず、園内職員総出の搜索が始まり、二人は無事に発見された。数日後、元さんのもとに姉弟の母親から感謝の手紙が届く。一方で、元さんは懲戒処分の通告（手紙）も同時に受けた。二通の手紙を見比べる元さん。自ら職を辞し、職場を去っていった。

元さんの行動の何が問題だったのだろう。

- ・ 幼い2人を保護者の同伴なしで入園させてしまったこと。
- ・ 幼い2人のことを考えれば、職員も一緒に回るべきだった。



元さんがこの年になって初めて考えさせられたことはどのようなこと？

- ・ 優しさだけではダメだということ。 ・ ルールや規則を守ることの大切さ。
- ・ 迷った挙句、2人を入園させたが、入園させるべきではなかった。
- ・ 後先のことを考えて行動するべきだった。 ・ 何より子供たちが無事でよかった。
- ・ 職場の方に迷惑を掛けてしまい、申し訳なかった。
- ・ ルールを破るというダメなことでも、感謝されることはあるんだ。

自分にとって、法やきまりにはどのような意味がある？

- ・ ルールとは、人を縛るものではなく、みんなの命や生活を守る約束事のようなものである。

法やきまりは、誰かが勝手に作ったものではなく、多くの人の幸せを守るため、制定されるまでに多くの議論を経て、みんなで知恵を出し合って決めたものです。そのため、それぞれの法やきまりには、必ず思いや願いが込められています。

中学3年生になると、学校や社会の規則に対して自分の考えを持ち始める時期です。広見中学校でも、昨年度から生徒会を中心に、校則の見直しを図ってきました。法やきまりは何のためにあるのか、そしてそれを守っていくことでどのような結果が得られるのか、これからは法やきまりの意義について、生徒の皆さんと一緒に考え、よりよい生活の実現を目指していきたいと思います。